



山川 悠斗 (やまかわ はると) 松枝小 3年生

作品名: 自分ですることの大切さ

図 書: 王さまロボット

ぼくは、「王さまロボット」という本を読みました。この本をえらんだ理由は王さまシリーズを前にも読んだことがあり、おもしろかったからです。

この本は、王さまが主人公の物語です。王さまは、めんどくさがりな人です。

そして、王さまはいいことを考えます。大臣をよんで、おしろのはかせに自分にそっくりなロボットを作らせて、めんどくさいことはみんなやらせてしまうのです。

ぼくがこの本を読んで、一番心にのこったところは、王さまがねることと、食べることいがいのめんどくさいことは、みんなロボットにさせてしまった所です。

もしぼくが、王さまと同じような立場だったと考えると、やっぱりロボットを作らせたいと思います。

なぜなら、ぼくもめんどくさいことはやりたくない気持ちがあるからです。

たとえば今、暑くてプールで泳ぎたいのに、家の階だんのそうじをしなくちゃいけない時に、ロボットがかわりに階だんそうじをやってくれば、ぼくはプールに行けるのと思うからです。

この後、王さまはとなりの国からサーカスを見にこないかという手紙がきて、自分が行くと言い出しますが、ロボットに行ってもらうことになり、くやしい思いをします。王さまはどうしても行きたくて、いそいでお風呂に入ったり、ひげそりをしますが、さんざんな思いをして、けっきょくサーカスに行けませんでした。

自分がやらなければいけないことをさぼって、王さまはロボットに、全部やらせていたので、さんざんな思いをしても、けっきょく好きなサーカスを見に行けなかったのは、しかたがないことだなと思いました。

さいごに、王さまは自分で考えて、朝の五時に早おきしてロボットをおこし、うまのりやべん強をこっそり教えてもらいます。歯もみがき、手もあらうようになります。

王さまは、さんざんな思いをして、やっと自分ですることの大切さに気づいたんだと思います。

そして、気づいたことをいかして、じっさいに自分でさぼってやらなかった分をとりもどすために、苦手だった早おきをして、ロボットにうまのりやべん強を教えてもらうことにしたのは、えらいなと思いました。

ぼくはこの本から、自分ですることの大切さを学びました。

王さまのように、色々なしっばいをして、さんざんな思いをすることが、これから先に何回もあると思います。でもその時にこの本のことを思いだして、どうしたらいいのかを自分で考えて、行動することができたらいいなと思います。

これから、ぼくはしっばいをしてもししたらいいのかを自分で考えて、色々なことにチャレンジしてみたいと思います。